

# まちなみ通信 みのお

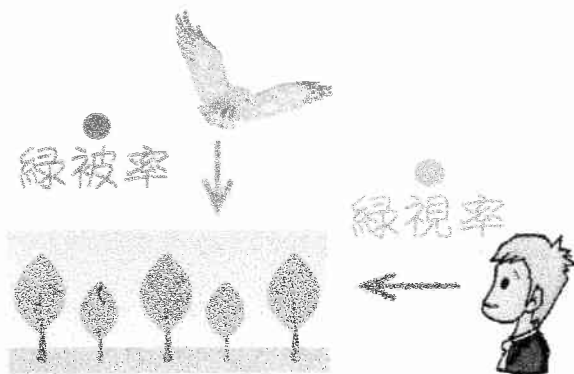
発行：NPO みのお市民まちなみ会議 第48号 2013年3月 パネル展特集

## 箕面のみどり（緑視率調査）

みのお市民まちなみ会議の活動報告でもある今年の「第17回まちなみパネル展」のテーマを、「箕面のみどり」としました。「みどり」をパネル展で取り上げるのは、今回で3度目です。平成元年に「まちなかのみどり」、平成3年に、「まちなかのみどり Part2」として、会員各自がそれぞれの切り口で、みどりへの想いや問題提起を行いました。緑はまちなみ景観を構成する重要な要素の一つです。いや最も重要な要素といってもいいと思います。遠くの山や鎮守の森の緑は好ましいが、近くの緑は嫌、落ち葉は多いし、虫はつく、茂って日陰になるなど緑を嫌がる人も多いのも事実です。一方、緑の無いコンクリートジャングルや街路樹の無い道路などには、殺風景で味気ない街と感じる人が多いと思います。

箕面は緑の多い街と言われています。「箕面市みどりの基本計画（平成16年策定、平成23年改定）」には、「山なみに抱かれみどり豊かなまち・みのお」と謳われています。箕面は山がすぐそばにあるため、緑が豊かに感じられるが、まちなかの緑は少ないという人もいます。さて、箕面のまちなかの「みどり」はどうなっているのでしょうか。まちなみ会議は、一昨年から、個々の緑についてではなく、箕面市のまちなか全域の緑の量を「緑視率」という考え方を使って調査してきました。以下にその調査結果の概要を紹介いたします。

その地域の緑の量をはかるために、「緑被率」という指標があります。緑被率とは、樹林・草地・農地・公園など緑で覆われている土地の割合をいい、右の図のように空中写真などが測定データとして用いられています。



これに対して「緑視率」は、人の視野に占める樹木などの「緑の面積」の比率です。見た目の緑の量を実感できる指標として有効で、緑視率が高まるにつれ、潤い感、安らぎ感、さわやかさなどの心理的効果が向上するなど、満足度が上がると言われており、緑視率が25%を超えると、人は緑が豊かと感じるという調査結果がでています。（国土交通省調査 平成17年）

従来から、自治体がつくる都市計画やみどり計画では、緑被率をまちづくり政策の指標として使っていましたが、近年、緑視率に注目が集まり、いろいろな自治体で緑視率の調査を行い、緑被率に緑視率を加え、これらの指標を用いて、まちづくりを進める自治体が増えてきました。東京都は特に積極的で、緑を増やすために、緑視率アップを数値目標として掲げている区もあります。

では、まちなみ会議の行った「緑視率調査の手順」を説明しましょう。

1) 箕面市全域の「まちなか」で、500枚近くの写真を撮影しました。本格的に撮影したのは、緑が充実している時期、24年7月です。

\*写真撮影にあたっては、平均的な人の目の高さと同じ、150cmの高さで、カメラを水平に構えて撮影。細かく言いますと、カメラレンズの焦点距離などが問題となりますが、ここでは、普通のデジカメで撮影しました。

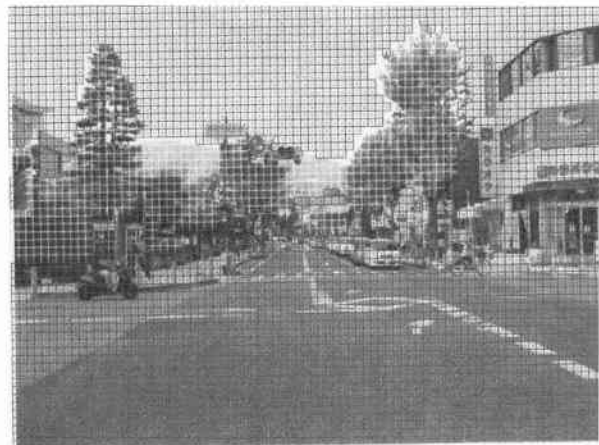
2) 箕面市全体を、500m×500mの区画に分割し、それぞれの区画から、5地点の写真を選びました。大型道路では、東西南北の4方向を撮影しています。最終的に166地点となりました。

3) それぞれの写真から、パソコンのエクセルを使用して、緑視率を算出します。

\*写真を4800のマスの分割し、緑が入っているマスを塗りつぶし、そのマスの数を数え、その数を4800で割って、緑視率とします。下図は1例です。

箕面市役所前交差点 北方向 19.1%

$$915 \div 4800 \times 100 = 19.1\%$$



緑視率測定の結果は、箕面市のまちなか全体の平均で、22.5%でした。緑視率の最も高い地点は、当然のことながら、止々呂美の田園地帯で、63.3%になりました。また緑視率の最も低い地点は、国道171号沿線地点で、0.5%とほとんど緑がありません。

箕面市を東部・中部・西部・北部（止々呂美・森町）に分けますと、次ページの表のように、北部を除いてはそれほど大きな差はありませんでした。ということは、箕面市のまちなかの緑の量は、ある地域に偏って存在しているのではなく、あちらこちらに平均的に分散しているということになります。また緑の量は、場所によって大きく「ばらついている」こと

も分かりました。

箕面市地域別緑視率

地 域	測定地点数	平均 %	最大値 %	最小値 %
全 市	166	22.5	63.3	0.5
東 部	43	23.0	43.0	5.0
中 部	58	20.3	59.7	0.5
西 部	56	23.3	52.4	0.9
北 部	9	28.3	63.3	9.7

以下にそれぞれの特徴的なまちなみ風景の写真を見ていただきましょう。簡易印刷のため写真が鮮明ではありませんが、雰囲気はお分かりかと思います。

● 緑視率の高いまちなみ

街路樹のある幹線道路、生垣や樹木の多い住宅地など



中央線・萱野3丁目 50.0%



紅葉橋通・桜ヶ丘2丁目 45.9%

● 緑視率の低いまちなみ

国道171号沿線、商業地界隈など



国道171号・今宮交差点 0.5%



桜井1丁目・桜井農協前 1.5%

● 箕面市の平均的な緑視率の場所



住宅地・粟生新家5丁目 22.7%



住宅地・粟生間谷東6丁目 21.9%

● 一般的に緑が豊かと感じる緑視率（25%）を少し超えるまちなみ



箕面3丁目・北小付近 25.6%



外院の里住宅地・粟生外院 25.6%

今回の緑視率測定箇所166地点の内、緑が豊かと感じる緑視率25%を超える場所は72か所で、43%を占めました。こうした場所が6割以上もあれば、緑豊かな街と言えるでしょうが、箕面市は微妙なところです。また、緑視率が、10%以下の地点は緑が少ない、30%以上の地点は緑が豊かと感じますが、今回の調査では、10%から29%までの緑視率の地点が85か所で、51%もあり、まちなかの約半分が、緑がまずまずと感じるか、まだまだと感じるか、人によって評価が分かれ場所で、判断の難しいところです。

今回、まちなみ会議の行った緑視率調査は、箕面市では初めての試みであり、調査手法も万全ではなく問題点も数多くあります。しかし、箕面市のまちなか全域のみどりを総合的なデータとして捉えることができ、「みどり豊かなまち・みのお」を目指すための問題提起になると思っています。今後の課題は、調査手法のレベルアップ、緑視率測定データのさらなる分析（地域属性による特徴—新旧の住宅地・商業地・道路など）、緑視率を向上させる要素はなにか、特定地点での時系列変化の追跡などがあります。単なる調査に止まらず、箕面のみどりを増加させるために役立つ手法として定着して行けば望外の幸せです。

（片岡 正彦）